岩菅山登山コース[登山道]

岩菅山登山（いわすげやまとざん）コースは、高天ヶ原（たかまがはら）バス停または発哺（ほっぽ）ゴンドラリフトバス停を起点とする上級者向け登山道で、どちらのバス停からもスキーリフトに乗って東館山（ひがしだてやま）にある登山口に向かうことができる。稜線に沿って歩いたのち、岩菅山（いわすげやま）（2,295m）山頂への急勾配を登り、その後、一の瀬（いちのせ）バス停へと下る。コースの全長は18.5キロメートル、標高差は700メートルで、終点までの所要時間は約6時間30分。

岩菅山は、文筆家・登山家の深田久弥（ふかだきゅうや）（1903～1971）に寄せて編纂された『日本二百名山』のひとつに含まれている。深田久弥は、高い評価を受け人気を博した『日本百名山』を1964年に出版した人物である（2014年翻訳出版）。また岩菅山は、修験道（しゅげんどう）と呼ばれる宗教的修行が今も行われている志賀高原唯一の山でもある。修験道は仏教、神道、民間信仰の側面を組み合わせたもので、その信仰において山は神聖な場所、宗教的な場所として考えられている。山伏（やまぶし）と呼ばれる修行者が、長い山道をひたすら歩いたり、凍えるように冷たい滝に打たれたり、絶壁にぶら下がったりと、肉体的に辛く厳しい苦行を行っている。